

# 寺報

発行 福島市田沢字寺前18  
長秀院・仲興寺  
TEL 024(548)1240  
FAX 024(573)1202  
ホームページ <http://www.choshuin.jp/>  
e-mail [info@choshuin.jp/](mailto:info@choshuin.jp/)

編集責任 渡辺 祥文



九月十日現在、新型コロナウイルス感染症は全国的に第七波の感染拡大も鎮静化に入りつつあるようです。三年目の秋となりますが、短気をおこさず、今後も皆で充分に気を配り油断なく対処してまいりましょう。

三年目の秋、本当に長い「ウィズコロナ」の日々が続いています。

三年も続くとお互いにいつ元に戻るのだろうかというイライラしていますが、前の状況に戻ることはないと考えるべきでしょう。

マスクも手指消毒も続けていくしかありません。時代の大きな転換点に生きているのです。自らの意識の転換とともに、「平常心」を基本に落ちついて向きあう日常をつくり出してまいりましょう。

## 案内板

仲興寺

○九月二十一日(水)

午前十時

秋彼岸供養・念仏供養  
(コロナ第七波中なので代表者にておつとめいたしました)

長秀院

そばを食べる会

洗心講座法話

中止

旅行会

中止

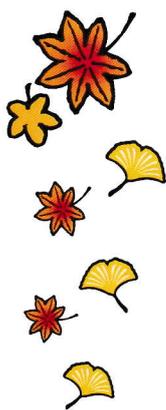
○十月十九日(水)

福島県宗務所主催

梅花流福島県奉詠大会

(限定人数にて開催)

於 福島市・パルセ飯坂)



令和四年 秋彼岸会

山主拜

# 雲水日記 その七

渡辺 秀憲

関東は急に暑さが和らぎ、ほのかな秋の兆しを感じ取れました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。

前回までは且過寮での生活についてお伝えしてきました。今回はその大詰め、いよいよ修行僧の一員として認められる日を迎えます。

且過寮では永平寺での生活そのものをたたきこまれると書きました。私たち見習い修行僧には客行和尚かあんおしょうという専属の教育係がつけられ、修行生活の基本的な作法を手取り足取り教えられます。「客行」とは、字の意味上はお客様のお世話係を指します。厳しくも一つ一つ丁寧に教えられる様は、まさしくお客様。まだ永平寺の一員として認められていないのです。

そんなひよこたちも、ついに正式な一員として認められる日が来ます。客行和尚が「これなら何とか永平寺でやっていける」と判断した日に、「暫到入堂の拜せんとうにゅうどうのはい」が行われます。永平寺の正式な一員として、僧堂そうどうの中に並んでいる先輩の修行僧にあいさつのお拝をするのです。これを機に見習いたちは「暫到和尚せんとうおしょう」と呼ばれます。

僧堂とは修行僧の寝起きし、坐禅をする大切な場です。修行の根幹をなす重要な場であり、それゆえに修行僧以外の出入りは原則禁じられています。「入堂にゅうどう」とはその僧堂に正式に入ること。それはつまり、見習いたちが一人の修行僧として認められる瞬間なのです。

もつとも、「暫到せんとう」の「暫」とは「暫定」

などの「しばらく仮の」といった意味。一般企業に例えるならば、最低限の研修を終えた「試用期間」でしょうか。修行僧の一員として認定こそされましたが、さらに一人前とされるまではさらに約半年間ほどかかります。それまで暫到和尚たちは、先輩の修行僧たちからの厳しい視線にさらされるのです。

「暫到入堂の拜」で僧堂に立ち並ぶ先輩修行僧の思いは様々です。「この新入者たちは修行をやり通す気概があるのか?」「自分はこの新入者たちのいい見本になれるだろうか?」「品定め半分、不安半分の先輩たちの心境などつゆ知らず、我らひよこたちは鋭い眼光に生きた心地がしないのでした。」

## 暫到入堂の拜



# ウイズコロナ

## 第七波のすざき

冬の第六波に続きオミクロン株が猛威を振った。あちこちから「感染した」「濃厚接触者になった」との話が入ってきた。何度も書くが、感染症である以上仕方がないことである。ただ、高齢者とか、体に弱いところのある人にとっては大事になるので、罹患しないようにということなのだ。

さらに、感染症に対する考え方が、人それぞれであるので、人の気持ちに分断がおきてしまう。それを二年半に渡って経験しているということである。特にBA5株に置きかわってさらに感染が拡がった実感がある。身内や近い人々がその状態になり、現在も続いている。第七波はすざかったということであろう。幸いなのは弱毒化しているウイルスだからか、またワクチン接種の力か、日常のマスク、手指消毒、会食の自粛等の力が関係して死者数がおさえられているのだろうか。九月以降、ただ鎮静化を願うばかりである。

## ウイルスが変異を 体験？している私たち

パンデミック禍中でウイルスが変異していくということを間近に体験しているのは私たちが初の人類なのだと思う。世界をのみこんだパンデミックは百年前のスペイン風邪以来初のことである。サーズ・マーズ・新型インフルエンザ等の流行・パンデミックは最近のことであるが、世界をまきこみ、そして死者が世界中に拡がったものとはならなかった。

スペイン風邪は、世界中に拡がり三〇五年で収束・終息を見たという。年数が少しあいまいなのは、当時、ウイルスを知らなかった、病源を知らなかった、誰がどう亡くなったかを厳密には特定できていないからである。自然に大感染が起き、マスク等の予防は唱えられたが、原因を知らない疫病だったからである。細菌より小さいものがあることは予想されていたが、ウイルスを人類はまだ知らなかった。電子顕微鏡ができ、ウイルスが特定されるのは、その後である。

野口英世博士が現在の医学の水準では評価されていないというのは、細菌より小

なウイルスを知らなかったからである。ちなみに世界的に当時知られていた野口英世博士の有名な母野口シカさんもスペイン風邪で亡くなっている。百年前の人々はただ新しい疫病にさらされ、自然に収束・終息するのを待つしかなかった。

今の私たちはウイルスの変異を報道等でつぶさに知り、ワクチンを接種して防いでいる。ここに特效薬が加われば通常の病気の一つになるのだろうか。ウイルスがパンデミックの中で変異していくことを体感しているのは、私たちが歴史上その最初の人類なのだと思うし、また体感目撃していることも、すごいことだと思う。

## 社会が動き出した

私自身、秋の出張がパンデミック前に戻ろうとしている。世の中が社会の維持・経済活動の確保のために動き出した。慣れが生じどうしても自分自身の防衛を忘れ、おろそかになる。「今現在、感染する人が多くなると、高齢者の方の死者が増えています」葬儀社の方々の言葉である。お寺は高齢者の方々が中心になる。自分や寺院の中は、とにかく感染予防措置をゆるめてはならないと思っている。

(住職拝記)



おねがい

お盆前後は行事も多く、住職が不在がちになります。種々の相談等でお急ぎの場合は電話またはFAXにてご確認下さい。

電話 〇二四一五四八―二二四〇  
FAX 〇二四一五七三―二二〇二



これまでの長秀院看花庭ナチュラルガーデンが、「パークゴルフ場」となります。実際の運営は田沢活性化会議の皆様が運営管理してくださいます。健康と体を動かす楽しさを提供したいとこのことです。ここにお知らせいたします。

令和四年九月二十日二時より  
長秀院看花庭かんかていパークゴルフ場  
グランドオープン式